

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202866		
法人名	有限会社あじさい		
事業所名	グループホームあじさい	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市世知原町筭瀬778-3		
自己評価作成日	平成24年8月25日	評価結果市町村受理日	平成24年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成24年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げている通り利用者様やご家族が安心して生活される様、安全第一に、また、スタッフが明るく笑顔で接し希望に添えるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな地域にある“グループホームあじさい”は、開設時から地道に取り組まれてきた事が、ようやく芽を出し始めている。地域との交流にも光が見え始め、“地域密着のホーム”である事を語れるようになってきた。この1年でご利用者の表情も明るくなり、ご本人の意思確認を大切に“待つケア”が続けられている。ベランダの洗濯物を気がけて下さり、「雨が降りよるよ」と職員に教えて下さる方や、電話が鳴っている事を教えて下さる方、お互いの部屋を行き来して、夜遅くまでおしゃべりを楽しまれる方々もおられる。浴槽も広く、仲の良い方と一緒に入浴されたり、職員との会話も楽しまれている。散歩も自由に行き、隣接するパン屋に買い物に行かれたり、季節の花見も楽しまれており、リビングで寛ぐご利用者からも、笑顔いっぱい「私たちは姉妹よ。ここが一番」と話して下さった。この1年で管理者や職員の入れ替わりも経験してきたが、新ホーム長を中心に新たなチームでの活動を始めており、職員個々のお力も引き出し始めている。更なる“職員の育成”を目指すと共に、ご利用者が“自由に楽しく笑顔で”生活できることを目標に、家族や地域の方々と一緒に家庭的な雰囲気を作り続けているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を念頭に、自由に楽しく、笑顔で日々安心して過ごされるよう心掛けて介護に努めている。	新体制になり初めての敬老会が開催された。家族の方も歌を唄って下さるなど、楽しいひと時を過ごす事ができた。職員は、“利用者が安心して生活できるよう、地域に密着、開かれた運営を行い…”という理念のもと、地域の行事に参加し、高校生の方達と一緒にレクを行い、ご利用者も一緒に触れ合いの時間を持つことができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地場所や日常的には厳しいものがあるが、地域行事や運営推進会議等の行事等に合わせ、あじさいを理解していただける様アピールに努めている。	地域の方との交流も増えており、地域のスポーツ祭やじげもん市、マラソン大会の応援にも参加している。法人系列の夏祭りには地域のボランティアの参加もあり、ご利用者も打ち上げ花火まで見る事ができた。23年度は保育園や幼稚園、町生涯学習センター等に挨拶に行き、ホームへの訪問やボランティア活動を申請し受け入れて頂いた。	今後も引き続き、近隣保育園等の運動会の見学を行うと共に、ホームにも園児に来て頂く予定にしている。今後もボランティアの参加を募り、交流を深めていく中で、今後もグループホームあじさいの事を理解して頂けるように努めていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来客又は研修会、そして運営推進会議の際に様々な情報を頂き、行事の参加等も多くなってきた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一人でも多くの参加、協力者を心掛け、交流の中で意見の交換を行い、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催しており、新しいご利用者の家族の方も参加して下さっている。9月の会議ではご利用者も参加され、「ここに入って良かった」と話して下さった。派出所の方からも交通事故への注意を頂き、地域の方との協力体制の話し合いも行われた。地域の方からの情報も含めて、有意義な会議となっている。	会議の日程を家族にお知らせしているが、参加が難しい状況が続いている。議事録を郵送し、会議内容をお伝えしていくと共に、遠方の方にも意見を頂ける方法を検討していく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回、市町村担当者に参加協力頂き、協力関係を築けるようにしている。	精神疾患の社会適応訓練の受け入れを可能にしている。更新申請時や会議の議事録、ホーム便りを持参する時は支所に出向いており、顔馴染みの関係になっている。保護課の方もホームに来て下さり、生活保護の方の相談も行う時もアドバイスを頂く関係が築けており、親身に相談に応じて下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が常日頃から身体拘束をしないケアを心がけている。	ご利用者は自由に生活されており、穏やかな方々が多い。職員全員が利用者全員の日々の状況を把握し、目配り気配りを心掛けながら、安全第一に支援を行っている。転倒等が予測される方には見守りを続け、身体拘束をしない事でのリスク説明も家族にしている。職員が1人体制の時以外は日中も鍵を開けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけではなく、言葉の虐待についても月1回のミーティング、関連書籍等で学ぶ機会を整えている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの中や状況に直面した時、改めて勉強の必要性を感じている。今後は学ぶ時間を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時に限らず、契約等に疑問点が生じた場合は理解、納得が得られるまで十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族の方にも参加して頂き、意見要望を聞ける場になっている。また、広報紙(あじさいだより)等で意見、要望を募っている。	ホーム便りや行事案内、介護計画を郵送し、家族に暮らしぶりを伝えると共に、家族に行事に参加して頂く機会を増やしている。家族からの意見も増えており、頂いた意見は運営に反映させている。ホーム長も家族の個人的な相談を受けており、家族の疑問にも丁寧に説明をするようにしている。今後は家族会も検討されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティング、また、全職員との合同ミーティングを設け、意見や提案を聞ける機会を設けている。	ミーティング時や毎日の申し送り、日常会話の中で職員の意見を大切にされており、ホーム長は職員からの要望を随時施設長に報告し、必要時に施設長もホームに駆けつけて下さっている。職員の気付きやアイデアは多く、レクリエーションの充実にも取り組み、外出やレクリエーションが内容の深いものになってきている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長が作成した勤務表の内容や勤務状況の報告を行い、指示に従ってミーティングを行い行動している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はホーム長、または管理者より定期的に状況報告を受け、必要な研修が有れば受講してもらい職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等の参加を通し、様々な課題を共有し、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部			自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		安心して生活して頂くために、面談の際には本人、家族から不安や要望を聞けるように努力し、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		家族の訪問時や電話連絡時の状況報告を密に行い、職員間で話し合いを持つ等して対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		対話の時間を持つように努め、色々な要求がある時には責任者に報告し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		入浴時やレクリエーション参加時等同じ目線で声掛けや会話に努め、一緒に行くことを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		2ヶ月に一度の広報紙ではホーム内の出来事、生活の様子を写真や文面でお知らせしている。また、広報紙と一緒にメッセージカードも同封し近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		いつでも電話をかけたり、手紙が出せるように支援している。また必要時には外出支援も行っている。	馴染みの方の把握を行い、知人の方に電話をかけるなどの支援をしている。外から手を振って下さる方や、ご利用者のお友達や近所の方が面会に来て下さり、他のご利用者とも交流して下さっている。買い物などは個別の外出支援が行われ、家族と一緒に馴染みの美容室に行かれる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		利用者同士の会話がスムーズに行えるように座席の工夫をしたり、部屋への行き来もできるようにしている。トラブル等がないように様子観察を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらより電話連絡したり、近くに来られた時には立ち寄って頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で趣味、特技、好きな事等を聞き、本人の思い、希望を把握できるよう努めている。	日々の生活の中で、“どんな事をしたいか”を伺っており、ご本人の言葉を引き出すようにしている。「花見に行きたい」「パンを買いたい」等の要望も伺い、意向に沿えるようにしている。この1年でご利用者の表情も明るくなり、ご本人の意思確認を大切に、“待つケア”が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報収集だけではなく日常の何気ない会話の中の情報を得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日個人記録の記入を行い申し送りを徹底している。問題点がある時にはその都度話し合いを行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心にアセスメントを行い、本人、家族等から要望を聞き、介護計画を作成している。体調等に変化があった場合、主治医に相談したり、職員全員で話し合いを行ったりしている。	介護支援専門員を中心に全職員で介護計画を作成しており、家族にも介護計画を郵送し、意見を頂いている。日々の役割や楽しみと共に、「買い物に行く」等、地域で暮らす視点も盛り込まれ、毎月の見直しも行っている。家族との交流も大切に計画を作成し、かかりつけ医からのアドバイスも頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌や個別記録に日々の状態の記入を行い申し送りに活かしている。問題点が発生した時はすぐに話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化が見られた時には必ず申し送りをし、介護計画の中に取り組み対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回の地域の巡回図書を利用し、それぞれ好みの本を借りたり、地域のボランティアの方にも交渉し交流することができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を明確にしており、定期受診はもとより、体調不良時には連絡、往診、受診ができるようにしている。	以前のかかりつけ医で受療している方もおられ、受診支援は職員がしている。隣の病院から往診を受ける方も多く、受診結果は家族に報告している。ホーム内の看護師や職員が昼間に体調変化を発見し、早期対応ができており、夜間に緊急対応する事は少ない。職員の見守りも行われ、転倒骨折も無く、お元気に過ごされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時や、異常を発見した時には必ず報告、相談を行い、必要時には受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時にはご家族や入院医療機関と連絡を取り合い、退院後も安心して生活して頂ける様状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の看取り看護について説明を行い、同意書に署名をして頂いている。終末期や容態変化があった場合は、家族や医療機関との話し合いのもと対応している。	ご希望があれば看取りまで行いたいと考えている。手を握って「死ぬまでここにおっとく」と言われた方もおられ、24年1月には終末期ケアが行われた。夜間の往診が無い事もあり、最期は救急車で病院に搬送しているが、昼間は往診が受けられるため、最期まで看取りケアを行う予定している。観察した内容をより詳しく記入していくと共に、緊急時の対応についての勉強も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、ミーティングの時等に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回関連している病院、施設とともに防災訓練を行っている。	ご利用者、職員、関連施設の職員、消防署職員、消防設備会社の職員に参加頂き、夜間想定訓練を行っている。関連施設や病院には避難誘導の協力をして頂けると共に、災害時の食料や水等も頂ける事になっている。ホームと隣接する厨房にも食料は常時あり、避難場所の確認も行っている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の気持ちを常に忘れずに接するようにしている。部屋に入る時には必ずノックし、声かけをして入るようにしている。	ホーム長、管理者、職員全員、ご利用者は人生の先輩であることを忘れず、尊敬の念を持って行動しており、“タプ集”と言う本をホーム(1・2階)で購入し、勉強を続けている。方言を交えながらも、「子供に接するような言葉遣いをしない」という事を職員同士で注意をおこない、個人情報管理も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制するのではなく、常に希望をききながら自己決定ができるように声掛け、促しを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天気や本人の健康状態に配慮し、希望をききながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の際には化粧をしたり、普段と違った服を一緒に選んだりしておしゃれが楽しめるようにしている。洋服が似合っていた時には褒めたり、襟元の乱れやボタンのかけ違い等声掛け支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回外食を行ったり、季節の花をテーブルに飾ったりしている。その他季節の食材の名前や簡単な作り方、食べ物の好み等日常会話や残菜の確認をしながら把握するようにしている。配下膳、台拭き等、その日の健康状態に合わせて一緒に行うようにしている。	週3回、夕食は関連事業所からお弁当が届き、他の日は管理栄養士が作った献立をもとに職員が調理を行っている。料理は1階の台所でしており、ご利用者も下ごしらえ、お茶配り等をされている。食事介助をする時も、ご本人の食べたい物を確認しており、ご本人ができる範囲、ご自分で食べて頂いている。	ご利用者と一緒にぜんざいやおはぎを作る等、おやつ作りや食事作りに参加して頂く機会を増やしていく予定である。バイキングも取り入れながら、職員も一緒に食べられる機会を増やしていきたいと考えている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については、声掛け促しを行い、毎回食事摂取量を記録している。水分補給については自己管理が可能な方にはペットボトルで随時お茶を渡すようにしている。自己管理ができない方については声掛け促しをその都度行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自身で可能な方には声掛け促し、義歯洗浄の指導、誘導を行っている。その他の方には一部介助で行うようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早めに声掛け誘導を行い、失敗の回数が減るように工夫している。おむつ使用の方でも、排泄後がわかる方には教えて頂き、すぐに交換するようにしている。	下着利用の方もおられ、トイレでの排泄を大切にしている。排泄間隔に合わせた声かけを行い、尿取りパッドの枚数を減らす事ができ、水分量の把握も行い、快便に繋げている。誘導時は言葉遣いや声の大きさに注意し、羞恥心の配慮もしている。難聴の方には文字や絵も使い、誘導の工夫を行う予定である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給促しやレクリエーションへの参加促しを行っている。ある程度歩行できる方には廊下を歩いてもらっている。おやつ時や水分補給時には牛乳やヨーグルト等の乳製品を積極的に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ自身での洗身を行なってもらうようにしており、見守りまたは一部介助の形をとっている。希望されれば夏場はシャワー浴もできるようにしている。	浴槽も広く、仲の良い方と一緒に入浴される方もおられる。順番やシャンプーなどの希望も大切にしており、職員との会話も楽しませている。キャスター付きのシャワーチェア等を使用し、洗い場の鏡の前に手すりも付けられ、立ち上がりが楽になった。ご本人の心理にも配慮した声かけを行い、自分でできる範囲、洗って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室においてはいつでも自由に休んだり自由に安らげるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明をファイルし、いつでも確認できるようにしている。処方変更等は必ず申し送りを行い、職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の際の配下膳時や、掃除機かけや拭き掃除等強制せずに参加できるようにしている。朝は新聞を自由に読めるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時は、散歩や買い物に職員が同行し、外出できるようにしている。	天気の良い時は近くのサイクリングコース等を散歩している。歩行が困難な方もホーム前の駐車場で日光浴を行い、地域の方に笑顔で挨拶をされている。同一敷地内にあるパン屋におやつを買いに出かけたり、食事を楽しむこともでき、季節に応じたお花見や大野町ダイソーでの買い物にも行かれている。月1回は三河内に外食に行かれ、道中のドライブと共に、ソフトクリーム等も楽しませられている。	軽自動車のオートマが入庫したので職員も喜ばれている。限られた方だけではなく、車いす利用の方もドライブできる機会を増やしていく予定にしており、レクリエーションの内容を検討していきたいと考えられている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は自分で好みの物を買ったり、職員に買い物頼むこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話できるようにしており、希望があれば介助している。手紙を書かれた時は投函を代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度に配慮しての空調調整やテレビの音量についても利用する方により随時調整を行っている。季節の花を飾ったり、不快な匂いがこもらないように消臭剤の適度な利用をしている。	職員の意見もあり、玄関や畑の前に一緒に座れるベンチを置き、日向ぼっこをされている。リビングからは周囲の山々を眺めることができ、畳のスペースで横になっている方もおられる。数人で座れるソファも置き、来訪者からも「明るくて開放感がありますね」とお褒めの言葉を頂いた。テーブルを新しく購入し、観葉植物を増やし、ご利用者からも「綺麗かね」と言う言葉が聞かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにおいては、それぞれに落ち着ける居場所があり、個々に談話したり、テレビ視聴等でつろがれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自宅より馴染みの品を持って来られたり、家族の写真を飾っておられる方もいる。	馴染みの寝具、ダンス、椅子、食器棚、写真等を持って来られている。仏壇などの大切な物もお部屋に置かれ、趣味の品物を思い思いに飾られている。それぞれ個性のある居室となっており、ご利用者に合わせてベッドの向きを変える事で精神的に安定された方もおられる。お部屋からも周囲の山を眺める事ができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			